

豊橋の豊かさを未来へ継承するために

No. 7

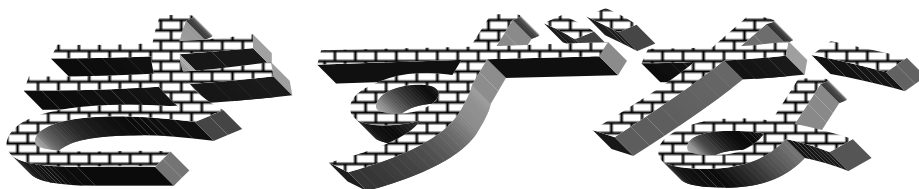
発行：豊田一雄事務所

豊橋市多米西町三丁目2-10

Tel 64-6147 Fax 64-1401

Email g-toyoda@tees.jp

http://toyo.pbeins.net



佐原新市長が12月議会で所信表明

12月定例市議会が12月1日から22日まで開催されました。17名の議員が一般質問を行った他、平成19年度一般会計決算認定及び競輪事業や総合動植物園事業など8つの特別会計決算認定、指定管理者契約の更新に関する条例案などの審議を行いました。今議会は、11月17日に誕生した佐原光一市長が初めて臨んだ市議会でもありました。

初日に行われた市長の所信表明では、時代は過酷な激動の時を迎えており、これからの数年間はきわめて重要な時期になるとの認識が示されました。その中で、「希望と誇りに溢れたたくましいまち」にするためとして、安心・安全で持続可能なまち、活発な産業活動、人に優しい交通手段、40万都市にふさわしい文化施設、多文化共生、東三河のリーダー都市、無駄のない市役所などをキーワードとして施政方針の説明がされました。

平成19年度一般会計決算については、歳入合計が市税収入653億円を含む1,134億円、歳出合計は1,093億円で差し引き残額は41億円となりました。

※以下に、12月議会豊田一雄の一般質問要旨を記します。

都市宣言を推進し、市民運動に

今回は「平和・交流・共生の都市宣言、具現化の推進について」と「行政評価制度の改善について」の2つについて一般質問を行いました。

一つ目のテーマ「都市宣言」については、2006年12月、市制100周年を機に「平和・交流・共生の都市宣言」が行われ2年が経過したので、ここまでの活動を見直し今後活かすために行ったものです。そこで、この宣言が市民にどんな意味を持っていたか、どうすればこの宣言がより意義あるものとするができるのかを考えるため、平和、交流、共生のそれぞれの目的、今後の取り組みの方向性などについて聞きました。

その答弁は、まず目的について「戦災により市街地の大半が焼失し大きな被害を受け、先人の大変なご努力によりここまで発展してきた本市にとって、平和への思いはとりわけ強い。また、これまで友好都市や姉妹都市、市民の様々な活動を通して国際交流に積極的に取り組んできた。さらに、近年、全国でも有数の外国人市民の多い町となり、多文化共生の取り組



★年頭ご挨拶★
 新年明けましておめでとうございませう。
 一昨年の米国における住宅バブル崩壊を契機に、昨年後半には急激な景気の減速が世界を覆いました。金融工学に基づく新しいビジネスモデル（商売の仕組み）が急速に発達したものの、それを適切に管理するルールや体制の整備が追いつかなかったことによるものと理解しています。株主だけのことではなく、地域社会やお客さま、そして従業員や取引先など、広く利害関係者のためを考えて活動する企業を大切に育てていくことの重要性が、改めて認識されたのではないかと思っています。この反省も含め、新しい秩序づくりに向けて世界は大きく変わって行くことになるのではないのでしょうか。
 今後、当地域への影響を予測し、将来像をしっかりと築きながら、当面の苦難を乗り越えて行かなければなりません。市議として、自分ができること、自分がすべきことを見極め、最善を尽くして参ります。本年もよろしくお願いいたします。（豊田一雄）



みを一層充実させる必要があった。そうしたことから、国際協力などを通じた平和への取り組み、交流による国際理解の一層の推進、異なった文化を認め合い、すべての市民が安心して伸びやかに暮らす多文化共生社会の実現を目指した」というものでした。今後の方向性については、「現在、平和・交流・共生の都市宣言推進計画・多文化共生推進計画を策定している。これまでの成果や現状と課題を分析し、市民のご意見もお聞きする中で、具体的な目標や取り組むべき事業を整理し、行政・市民・企業・関係機関が一体となって、計画的な取り組みを着実に進めていきたい。」ということでした。

この質問を通じて訴えたことは、この宣言の実践が平和の実現ばかりでなく豊橋のためにもなるはずということです。既に豊橋には貧しい国に対して、教育施設の設置支援、奨学金提供、女性自立支援活動などを行っている市民団体があります。市としてこれらの活動の輪を広げる手助けをするなどし、多くの豊橋市民が世界に目を向けて、困難な状況にある人達を支援する活動に参加するようになれば、豊橋自身ももっと思い遣りに満ち溢れ

た町になるという考えを伝えました。

さらに共生については、共生の最前線である市東部の市営住宅に市の幹部が訪れることはほとんどなかったことを指摘。市幹部の方々に現地を目の当たりにし、生の声を聞いていただきたいこと、外国人に日本語を教えてくださいと、ボランティアの支援、外国人を雇用する企業との緊密な情報共有など、佐原市長が言う現場主義の実践に期待することを伝えました。

行政評価制度に柔軟性と新しい視点を

従来、行政では“執行すること”自体に重点がおかれ、“仕事をした結果”を評価し、次の仕事に反映させ、より適切な方法を検討・選択する、ということにあまり重点が置かれなかった傾向がありました。その反省に立って、市民の高い満足度を得られる行政実現のため、本市では「事務事業評価」「政策・施策評価」などの行政評価を行っています。佐原市長は公約で「全事業の必要性和意義の見直し」を掲げていますが、行政評価制度はまさにそのための重要な手段となるはずで、そこで、行政評価制度の課題と改善の方向性などを聞きました。

答弁では「見やすさ、分かりやすさの点において工夫が必要。評価に要する作業時間などの点も課題であると認識している。評価指標と事業目的の整合については、より目的にふさわしい指標に変更することも行っている。現在、行政評価制度全般にわたって見直しを行っている」ということでした。

この質問の際には、様々な仕事の性質に合わせることで、柔軟さを取り入れることの必要性を訴えました。例えば、仕事によっては評価の指標を満足度とか便益を目安とするばかりでなく仕事量を目安とすること

でもよしとし、評価回数についても1年に1度というばかりではなく、日常頻繁に評価するなどです。目標を職場にしっかり掲示することと合わせて、進捗状況が一目で分かるような工夫をし、市民も見られるようにすることなども提案しました。さらに少ない歳入でも運営可能な市役所とするため、行政でなければならない仕事に絞る必要があることから、何をもって行政でなければならない仕事を判断するかという基準を定める必要性も強調しました。

清志会ニュース

○12月議会の一般質問

清志会からは以下の4名が一般質問を行いました。

- ・藤原孝夫 議員（代表質問）
 1. 新市長の基本的な政治信条や政治使命について
 2. 東三河政令市実現に向けた取組みについて・・・など
- ・豊田一雄 議員（前述の通り）
- ・久保田正 議員
 1. いきいきとした豊橋市役所づくりについて
 2. 全国に誇れる豊橋市立の高等教育について・・・など
- ・岩瀬篤 議員
 1. 吉田城復元について

○会派ホームページを設置しました。

http://www.geocities.jp/t_seishikai/

お知らせ

※出前市政懇談会：3人以上の方が集まっただければ、都合のつく限り市内のどこにでも出かけます。おもて面上段の連絡先へご一報ください。

◆◆◆◆ 解説 放課後児童クラブの課題 ◆◆◆◆

放課後児童クラブは、保護者が仕事などにより昼間家庭にいない小学校の児童に対し、放課後や長期休業中、健全育成をはかるために適切な遊びや生活の場を提供しています。近年、共働き家庭の増加と核家族化の進行により、その需要は益々高まっています。現在、豊橋市内には公営30、民営19の施設があり、合計2,300人以上の児童が在籍しています

が、民営クラブ19ヶ所の内、多米ファイト学園児童クラブを含む10ヶ所(平成20年4月1日現在)については、既に登録児童数が71人を上回りました。その結果、施設が手狭になる、指導員の数不足などの問題が生じています。

児童クラブの運営費については、概ねその半分を保護者負担で賄うことを想定して、国と市が補助を行っています。しかし、児童数が71名を越えるクラブに対しては、平成22年度以降国の補助が打ち切られることが決



まっています。既に施設が手狭になっていることと合わせ、このことが決定的なきっかけとなり大規模クラブは分割を模索せざるを得ない状況となりました。しかし、土地の確保、建設費の調達などが大きな問題となっています。従来、父母会が行う放課後児童クラブの施設整備に関しては特に補助施策がありません。そこで、関係団体などから市に対して施設整備に関する新しい補助施策の要望が寄せられています。現在、豊橋市では平成21年度予算案の検討が進められていますが、世界的な景気後退の影響を受け、市民税の減収は避けることができないことが予想されており、補助施策の新設については予断を許さない状況にあります。

因みに、多米ファイト学園児童クラブでは児童数の増加により、既存の施設で今夏を過ごすには、子どもたちにとってあまりに過酷な環境となることが予想されることから、地主さんのご理解をいただき施設の分割増設の準備を進めています。早期の資金援助が望まれるところです。